

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部/2年

参加プログラム: IARU GSP 派遣先大学:北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 IARU(世界 10 大学連合)に所属する北京大学</p>
<p>参加した動機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の外側にある世界の一部を経験したかったから ・将来の海外長期留学・研修を視野に入れており、その是非や、そのために何が必要かを考えるきっかけにしたかったから
<p>参加の準備</p> <p>①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 前もってVISAカードやMASTERカードを用意しておくといよい。授業料や申し込み手数料は原則オンライン決済である。</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 後回しにせず、早めにやっておきたい。方法は北京大学から案内が送られてくる。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特にしなかった。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 三井住友海上の海外旅行保険に加入した。未成年者は保護者が加入手続きをしなければならない。</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 教養学部前期課程教務課は何もしてくれないので、1年生のうちに十分単位を取得しておきたい。英語二列は試験の代わりにエッセイを提出、独語二列は講義を2回欠席し(担当の川中子教員による特別措置はなし)、帰国後1週間で試験、法社会学(法学部専門科目)も同様に短期間で準備が必要だった。履修はその三教科のみ。</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) IELTS6.5点。VOA ニュースの教材を購入してリスニング対策に取り組んだが、現地ではしばしばついていけなかった。むしろ自分の英語力についてどこをどう伸ばすか留学でつかんでくるものだと思う。</p> <p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 正露丸(腹を下しやすというよりは、下した時が大変。トイレが…)。ビタミンを摂取できるサプリメント。</p>
<p>学習・研究について</p> <p>① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 予習としてリーディングの資料を読んでくれることが要求され、それに基づいて講義、学生によるプレゼン、ディスカッションが行われた。短いエッセイの提出を2回求められた(2回)</p> <p>② 学習・研究面でのアドバイス リーディング教材を読み、講義のトピックについて自分なりの意見を用意しておくことと充実すると思われる。</p> <p>③ 語学面での苦勞・アドバイス等 学生の会話についていけない。ネイティブの速さも、地方特有の聞き取りづらさも両方難しい。自分なりの対策をして、通用すれば自信にし、しなければ今後の課題とすればよい。英語で思考するということは、また一歩先のレベル。</p>
<p>生活について</p> <p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 留学生寮をあてがわれた。概して住環境は良好。食事つきだと思っていたがそんなことはなかった(キャンパスの食堂は安い)</p> <p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) とにかく高温だが湿度は日本に比べれば低い。大気汚染は最初の1週間だけ空がかすんで見えたが、以降は青空が広がった。夏は本来空気がきれいだったとのこと。食事はとにかく安く、選べばそれなりにおいしいものが食べられる。お金は空港で日本円をまとめて両替、キャンパス内のATMでVISAカードなどから現地通貨を引き出せる。</p>

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
人としゃべる機会を意識的に設けないと心がふさぎ込む。英語に苦手意識がある人は気を付けたほうがよい。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃…5万円弱、授業料…15万円くらいか、教科書代…0円、家賃…0円、食費…8000円くらいか、交通費…地下鉄は一回の乗車で2元、バスは1元、娯楽費…他の留学生と夜遊びするならかかる、あとはお土産

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
日本学生支援機構、東大から6万円ずついただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
現地ですぐにできた友達と観光するなど。現地の学生がいろいろなアクティビティを計画してくれ、それに参加したところ週末はおおむね埋まった。あとは、夏休みではないから試験勉強。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
現地学生がTAとしていろいろサポートしてくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
インターネット接続など多少わかりにくい。自分はスマホを持っていなかったが、持っている人にはSIMカードの購入をお勧めする(キャンパスで買えるが、店員は英語を解さない。初日にTAが手伝ってくれる。食堂はキャンパス内にたくさんある。あらかじめ指定された場所で学生証に現金をチャージしておいて、レジでかざして決済する。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

- ・自分の英語力について、足りないところが明確にわかった→速いコミュニケーションについていく力
- ・外国語で学ぶことの難しさを知り、そもそもそれが必要なのかを考える土台ができた
- ・語学力だけでなく、日ごろから国際情勢や国内の政治に対してもっと関心を向けなければならないと痛感した
- ・海外の学生の議論を聞ける範囲で聞いていると、それほど生産性の高いものではないことがしばしばある
→それゆえに議論が追えないことが多く、追えていても言いたいことを英語にするまで時間がかかるのは歯がゆい
- ・帰国してからも、学業を第一にするシンプルな生活を確立したい。留学期間中は否が応にもそのような生活だった。

②参加後の予定

法学部在籍中に留学をするつもりはない。法律をちゃんと勉強したいということと、金銭的な事情とがある。官僚になってから海外研修に行きたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷ったらとりあえず行ってみるといい。行くことで見えてくるものがあるし、どういう形で終わるにせよ、帰ってから国内での学習その他の活動に対するモチベーションになると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

「中国出張時の持ち物リスト」のようなサイトは荷造りの上で役に立った。
『地球の歩き方』は何かと便利。外でトイレが見つからないときにも救われた。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策学教育部 専門職学位課程 2 年

参加プログラム: IARU グローバルサマープログラム 派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1. 研究職 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) 3. 公務員 4. 非営利団体

⑤. 民間企業(業界: シンクタンク、コンサルティング) 6. 起業 7. その他()

派遣先大学の概要

北京大学: 1898 年創立の国立大学であり、中国で屈指の名門大学として知られる。国際的なランキングも高い。

参加した動機

第一の動機は自身の国際公共政策という専攻から、近年の日中関係の悪化に対して懸念を抱いていたため、本プログラムが開講していた中国をめぐる国際政治というテーマの講義に興味を持ったから。また、選択可能な短期留学プログラムの中でも、滞在期間ができるだけ長いものを選んだ。短い期間だと当地の生活に十分慣れないまま終わってしまいそうだったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加手続きに必要な書類は入手方法や入手にかかる時間をしっかり勘案すべき。自分は応募当時就活中でなかなか大学に行く時間が作れなかったため、受付部局に迷惑をかけてしまうことがあった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

申請は代行業者を介して行った。ネットで簡単に探せるが、最初に依頼した業者は連絡しても反応が鈍く、最終的にはビザ発行手続きを現在していないと告げてくるような杜撰きわまる対応をしてきた。そういうことも考慮して、日数的な余裕はしっかり取っておくこと。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

大気汚染が少し不安だったため、マスクを持参した。他は常備薬、消化剤など。胃腸が強くない人はお腹周りの薬を多めに持っていくとよい。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大手保険会社の提供する死亡、障害、物損をカバーする保険にインターネットを通じて加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

7 月をまるまる現地で過ごすことになるので、試験が受けられなかった。履修手続きの際、予め教官に相談し、必要な全ての科目において試験に替えたレポートや追試などの措置を取って頂いた。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前に英語は TOEIC が 900 点、TOEFLiBT が 100 点程度あった。中国語は全く言っていないほどわからなかったが、その場で勉強するつもりだったので、特に事前に集中的に学んだりしなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

電圧が異なるため、変圧器は必須。他は 3 にも書いたが医薬品は高くつくし、自分に合ったものが手に入るかわからないので持参すべき。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

履修したコースは 1. 現代中国の国際政治経済に関する課題を扱う”Major Issues Concerning the Rise of China”と②中国語の語学のレッスン(任意/初学者レベル)の 2 つ。2 つ合わせても週で 14 時間程度で、時間的にタイトではない。

1. について。予習として、毎回の授業の前に論文 2~3 本が課される(合計で 5, 60 ページ)。授業そのものは回によって論文の内容や授業の内容に関する小テストがあり、その後教授による背景知識の説明、学生によるプレゼンテーション、クラス全体でのディスカッション、10 人程度の小グループに分かれてのディスカッションなどで構成されるが、毎回かなりフレキシブル。中ごろと期末にそれぞれエッセイの執筆が課された。

2. について。テキストが配布され、基本的にはそれを中心に課をこなしていくスタイル。漢字文化圏外の学生が大半を占めることもあってか会話に重点が置かれており、教官や学生同士のロールプレイが多い。宿題はほぼ毎回課されるが、難しくはなく、量も多くない。最後の週にテストがあった。

②学習・研究面でのアドバイス

クラスで議論される各トピックについて、自分なりに意見や疑問をもって発信していく必要がある(そうしないとクラスの一人として見なされない)。教官による一方通行の講義になりがちな東大の(特に学部レベルの)授業に慣れていないと、最初はかなりしんどいだろう。最初のうちは私も意見が言えなくて苦労したが、自分なりに調べた知識や主張を出していくことで、ディスカッションの中でも「君はどう思う?」と意見を求められることも増えた。緊張すると思うが、臆することなく挑んでほしい。

③語学面での苦労・アドバイス等

英語力はかなりのレベルが求められる。国内では、それなりに英語力がある方だと自負していたが、それが自惚れだったとたちどころに気づかされた。それでも拙いなりに自分から学生に話しかけにいて、表現など学ぶことができた。中国語については、日本人は漢字が読めるというアドバンテージがあるので、ほとんど苦労しなかった。

生活について

※ここでは1元=16円で換算する。

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Global Village という近年建てられた留学生向けの寮ですごした。大学まで歩いて10分程度というアクセスの良さに加え、部屋にエアコンやブロードバンド環境が整い、共用スペースも十分にあり、急なトラブルにもレセプションが24時間対応してくれるなど、サービスの質が非常に高かった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大気汚染は心配していたほどひどくなく、ほとんどの学生がマスクなしで過ごしていた。最高気温は日本とあまり変わらないが、湿度が多少低いのと日が落ちると涼しくなるので過ごしやすい。遠出する際の交通機関は主に安価な地下鉄を利用した(どこまで乗っても片道2円で、プリペイドカード有)。食事は基本的にキャンパス内の学食やカフェテリアでとった。一食あたり7~10元程度でおかず2品にご飯のついた定食が食べられる。金銭については、校内の飲食店やスーパーでは学生証に現金をチャージする仕組み。それ以外の際の支払いにはカードではなく、現金払いが全てだった。100元札など高額紙幣はお釣りがないこともあるので、できるだけ小銭を多く持ち歩いた。現金の引き出しは構内のATMを通じてデビットカードで行った。中国語でしか操作ガイドがない機械もあるが、雰囲気で大体わかる。ATMだけでなく店のスタッフなどは大学の中でも外でも基本的に中国語で話すので、初歩的な会話表現をマスターしていると便利。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安の面でも、健康の面でも取り立てて大きなトラブルはなかった。ただ一つ気を付けてほしいのは、日本と違って中国ではクーラーをかなり効かせるので、大学の教室や長距離移動のバスの中は肌寒いことがある。薄手のシャツなどを持ち歩くと対応できる。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

往復の航空券を除くと、合計で10000元程度。そのうち大半は事前に支払う授業料や寮の宿泊費用にあたり、実際に現地で衣食や娯楽に使用したのは2500元(=40000円ほど)。食費、交通費、その他生活必需品の費用は日本に比べて格安に抑えられている。一部の博物館が無料開放されているほか、観光地では学生証による割引も多かったため、学生証を忘れないように。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

元々大学からの奨学金の出るプログラムとなっていたので、そこから受給した。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

基本的に平日は勉強、週末は観光というスケジュールだった。大学側で毎週のようにアクティビティが用意されており、天安門や万里の長城といった北京市内外の観光地にみんなで行ったり、パーティーが開かれたりイベントが盛りだくさんだった。それ以外でも気の合う学生同士で出かけたり、スポーツに興じることもあった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

各コースにアシスタントとして現地学生が付く形になっており、授業のサポートの他、課外イベントの手配などをしてくれて、非常に助かった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

学内に無料のwifiがあり、使いやすい。日常生活必需品や食事については、店が構内にたくさんあるので困らないが、学生証で会計できるところとできないところが混在しているので、現金も持ち歩く方が賢明。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

1か月の間、世界各国から集まってくる学生たちの間で過ごして感じたのは、真の意味で国際化された環境にあって、自分はまだまだ未熟なのだという事だ。具体的には自分のバックグラウンドをしっかりと持つこと、すなわちしっかりと内面化された学問的背景に加え、日本人である特殊性を認識し、他者と差別化できるポイントを探る姿勢が自分に欠けているものであり、またそれがグローバルな環境で生きていくにあたって肝要なことである。それでも自分なりの付加価値を見つける努力を惜しまず、また失敗を恐れず飛び込んでいくことで、成長を感じる機会も多々あった。中国を考える上で、日本という国は地政学的、文化的、経済的に非常に重要な位置づけにあります。海外の学生も中国や

アジア圏に関する日本人の見解を求めており、それに応えて日本人にしか、さらには自分にしかできない意見を発信する力はほんの少しではあるが身に付いたと考えている。
もちろん単純な語学力も磨きをかける必要性を痛感した。参加者には教科書的な正しい英語を使う学生ばかりではないので、どんな種類の英語にも対応できる会話力は必須だ。
プログラム全体を通じて、自分の未熟さを痛感することばかりだったものの、それは裏を返せばまだ伸びしろがあるということでもあると肯定的に捉えて、日本に帰ってきてからも頑張ろうと心から思うことができた。

②参加後の予定

一応民間のシンクタンクへの内定を持っており、順当にいけば来年度からそこで働くことになる。そこではアジアビジネスへのコンサルティングや調査事業を行っているので、今回のプログラムなどで培った知見を活かしてその事業に関わりたい。ただし卒業を延期して修士号取得をめざした長期留学をすることも選択肢に入れている。いずれにしろ、卒業までは英語と中国語を自主的に学び、語学面でのハンデを少しでも減らすよう努めたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは1カ月というまとまった期間海外で過ごすことができるので、現地の雰囲気をとことん味わいたい、海外の学生と親密になりたいと考えている学生にはピッタリの機会だと思います。語学や生活習慣などに不安を感じる方も少なくないかもしれませんが、中国語は日本人にとって読み書きの面で親しみやすい言語ですし、物価も格段に安いので日常生活を送るうえでもストレスが少ない環境が提供されます。そういう意味でもハードルは低いと思うので、ぜひ特に年次の低い学部生のうちに経験してほしいと望みます。

もしより詳しい話を聞きたいという方がいれば、山田悠生 yamabikoyamada☆gmail.com(☆を@に変えてください)に連絡くれれば、いつでも応じます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2014年 8月 1日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: IARUサマープログラム 派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界: 広告) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要
参加した動機 英語力の向上と、中国への深い理解
参加の準備 ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 早めはやめの確認と準備をすること。ビザ・航空券などは特に。 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) このプログラムの直前はカナダに行っていたので、なんとカナダで手続きをしなければならなくなり、非常に面倒だった。 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) なし ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) カードのみ ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 単位互換は経済学部ではあまり期待できない ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 耳を慣らせておくよう努力した ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 中国の場合、マスクはやはり必須
学習・研究について ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 日本の大学の授業とは比べ物にならない予習復習量を要求される。速い英語が聞こえないと着いていけない。 ②学習・研究面でのアドバイス 授業内容への興味がないと持たない。 ③語学面での苦労・アドバイス等 ネイティブと話すのはハードルが高いが、練習にはなる。
生活について ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 決まっていた ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 大気汚染は気になったが、おおむね快適。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特に無し

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券 5 万、食費含め雑費 4 万円、プログラム費用は 15 万程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOと東大短期の両方。6 万ずつ。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
観光をしていた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
多少不親切だが問題なかった

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
食堂は安くてかつ充実している

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
自分の語学力の成長と限界を感じた。授業を通してリアリズム的世界観が自分の中で強くなった。

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。